

# 絵本における繰り返し構造と結末の分析

鯨坂 はるよ\*

## An Analysis of Repetition Structure and Ending in Picture Book

Haruyo Ajisaka

---

【キーワード】 絵本, 繰り返し構造, 結末

picture book, repetition structure, ending

### 1. 研究の背景と目的

絵本とは何か。松居（2003）は、「文と絵を“本”という形で表現する絵本は、つとにひとつの総合芸術」であると述べている。絵本は、子どもたちにとって、どのようなものなのだろうか。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「言葉による伝え合い」に「先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる」とある。絵本を通して、言葉の響きやリズム、新しい言葉や表現などに触れ、これらを使う楽しさを味わえるよう言葉を豊かにし、言葉による伝え合いを楽しみ、言葉を身に付けていくのである。赤羽根・鈴木（2018）は、「ことばは、日常の生活のなかでのやりとりだけでなく、絵本や紙芝居などの文化財とのかかわりのなかでも育まれる」と述べている。絵本は、子どもの発達に欠かせないものの1つである。

子どもの発達を促す絵本であるが、絵本を強制せずとも、子どもたちを引きつける魅力がある。絵本の魅力とは何であろうか。なぜ、子どもたちを引きつけるのだろうか。本稿では、絵本の構造に焦点を絞り、絵本の魅力を検討したい。

秋葉（1982）は、絵本の構造分析を行っており、ストーリーの展開に伴い中心人物がどのように変化するかを類型化すると大きく3つ、一貫性型、順番型、複線型に分けられると述べている。一貫性型は、中心人物等が物語の導入から結末まで一貫して登場し、中心人物等にいろいろなものが加わっていく加算型（『てぶくろ』）、次々に色々なものに出会う出会い型（『とらっく とらっく とらっく』）、加算型と出会い型の混合型（『もりのなか』）があると指摘している。順番型は、中心人物が順番に出てくるタイプで、『三びきやぎのがらがらどん』『シナの五にんきょうだい』を例に挙げている。複線型は、時間

---

所属および連絡先

\* 大阪千代田短期大学

的なずれにより、中心人物が変化するタイプで、先に行ってしまった主人公を後から追いかけていくような場合であり、『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』『ふしぎなたけのこ』を例に挙げている。このように、絵本の構造を分析しているものもある。

何冊もの絵本を見て絵本の構造について気付くことは、同じ言葉や行動を繰り返すものが多いという点である。この点を指摘し、絵本を反復、繰り返し構造として、分析する手法もある。井倉・青木(1988)は、繰り返し構造について『てぶくろ』を例に挙げ、「不思議な手袋にすみつく動物は小さなものから大きなものへと<系列>的に並べられている。また、動物の数は、一びき二びき、三びき…と<累積>されていく。この世界の展開には、<系列>と<累積>が見られ、このような順序的な構造は、<系列的累積>構造と呼べるだろう。一方、<できごと>部においては、『だれだい?』と問い、『…だ』と答えては、次から次へと手袋に入り込む。このようなやりとりが繰り返され、そこに<反復>という構造が認められる。」と述べ、「このような構造をまとめて、<系列的累積—反復>構造と呼ぶことができる」と述べている。

また、岩田(2003)は、絵本構造を基本累型と混合類系とに分け、基本累型の中で系列型、累加型、反復型、円環回帰型、変身・変容型とに分けている。混合類型は、系列型、累加型、反復型、円環回帰型、変身・変容型が混合しているものである。その中で、『いないいないばあ』を反復型に位置付けている。

絵本には言葉の繰り返しも多いが、本稿では、絵本の内容、ストーリーの繰り返し構造に焦点を絞り、分類、分析し、検討する。また、繰り返し構造の後、どのような結末になっているのかも、パターンがあるのではないか。その結末のパターンも子どもを引き付ける絵本の魅力の1つとなっているのではないかとと思われるので、絵本の結末も分析を行う。

## 2. 研究方法

絵本における繰り返し構造を分析するために、代表的で、子どもが好きな絵本、よく読まれている絵本を抽出することが理想的である。本稿では、全国学校図書館協議会選定の「第28回 よい絵本」を基にし、対象年齢を乳児(0~3歳未満)としている日本の絵本<sup>1)</sup>4冊、幼児(3歳~就学前まで)としている日本の絵本53冊、合計57冊<sup>2)</sup>を分析対象とした。この全国学校図書館協議会選定の「第28回 よい絵本」は、2016年に選定され、絵本読書の普及を図ることを目的とし、学校図書館関係者、教育関係者だけでなくより広く一般社会に提供するため、全国学校図書館協議会ホームページにて公開されている。

上記の57冊の絵本から、しりとり絵本や繰り返しが無い物語、言葉がない絵本等を省くと、繰り返し構造が見られた絵本は、対象年齢が乳児の絵本で4冊(『いないいないばあ』『おふろで ちゃぷ ちゃぷ』『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』『どんどこもんちゃん』)、対象年齢が幼児の絵本で27冊(『おおきなかぶ』『オー・スッパ』『かえるのあまがさ』『がたたん たん』『ガラスめだまときんのつののヤギ:ベラルーシ民話』『きつねとうさぎ:ロシアの昔話』『キャベツくん』『くまくん』『くろねこかあさん』『ケンケンとびのけんちゃん』『ゴムあたまポンたろう』『三びきのこぶた:イギリス昔

話』『しゅくだい』『しろくまのパンツ』『すやすやタヌキがねていたら』『だるまちゃんとてんぐちゃん』『でんしゃえほん』『ともだち できたよ』『とりかえっこ』『ねずみくんのチョッキ』『はぶじゃぶじゃ』『はやくねてよ』『ふってきました』『ぼくのくれよん』『ぼくのトイレ』『わたしのワンピース』『わんわん わんわん：くすくすえほん』) で、合計 31 冊である。

### 3. 結果と分析

#### (1) 繰り返し構造の種類

上記の絵本を反復型、系列的反復型、累加型、系列的累加型、中心物一貫性反復型、中心事物一貫性願望反復型に分類する。

反復型は、『いないいないばあ』のように、「いない いない ばあ にゃあにゃあが ほらほら いないいない…」 「ばあ」という同じ言葉を繰り返し、いないいないばあをする。「にゃあにゃあ」のところが、別のものに変化し、繰り返す。他に反復型は、『しろくまのパンツ』『三びきのこぶた：イギリス昔話』『ふってきました』『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』『おふろで ちゃぶ ちゃぶ』がある。

『ねずみくんのチョッキ』は系列的反復型とする。『ねずみくんのチョッキ』は、「いいチョッキだね ちょっと きさせてよ」「うん」「すこし きついが にあうかな？」というやり取りの繰り返しをしながら、ねずみくんのチョッキをねずみくんより大きい動物が着ていく。だんだんと大きな動物が着ていき、最後はぞうさんがねずみくんのチョッキを着て、ねずみくんのチョッキは伸びきってしまう。小さい動物から大きな動物へと移行していくので、系列的に並べられている。小さなものから大きなものに移行するので、系列的とも言えるので、系列的反復型である。『ねずみくんのチョッキ』とは逆に、大きなものから小さなもの（クマからハチ）に移行する系列的反復型に、『ガラスめだまときんのつののヤギ：ベラルーシ民話』がある。

累加型は、『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』で、靴にきゅうりさんがのっていると、とまとさん、たまごさんが靴にのせてとやってきて、靴にきゅうり、とまと、たまごと増えていく。他に累加型は、『わんわん わんわん：くすくすえほん』がある。

系列的累加型は、『おおきなかぶ』のように、「うんとこしょ どっこいしょ それでも かぶは ぬけません」という言葉を繰り返し、おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこ、ねずみと登場人物が増え、やっとかぶが抜ける。累加型であり、かつ、『ねずみくんのチョッキ』とは逆で、登場人物が大きいものから小さいものに移行していく。大きなものから小さなものに移行するので、系列的とも言えるので、系列的累加型である。

中心物一貫性反復型は、常に、同じ中心物が登場し、その中心物に変化していく。例えば、『とりかえっこ』は、ひよこが「びよびよ」と鳴きながら歩いていき、ねずみさんと鳴き声をとりかえっこする。そして、ひよこが「ちゅう ちゅう」と鳴きながら歩いていると、ぶたさんに会い、鳴き声をとりかえっこし、「ふう ふう」と鳴きながら歩く。次は、かえるさん、いぬさんと鳴き声をとりかえっこする。常に、ひよこが中心物として登場し、物語が展開する。これと同じ型に分類されるものが、『どんどこももんちゃん』『オー・スッパ』『かえるのあまがさ』『がたたん たん』『キャベツくん』『くまくん』

『くろねこかあさん』『ケンケンとびのけんちゃん』『ゴムあたまポンたろう』『しゅくだい』『すやすやタヌキがねていたら』『だるまちゃんとしてんぐちゃん』『ともだち できたよ』『はぶじゃぶじゃん』『はやくねてよ』『ぼくのくれよん』がある。

中心事物一貫性願望反復型は、『でんしゃえほん』『ぼくのトイレ』『わたしのワンピース』のように、こんなでんしゃがあったらな、こんなトイレがあったら面白いな、こんなワンピースがあったらいいな、という願望を表し、繰り返し変化していくものである。

## (2) 結末の類型

絵本の結末のパターンはどのようなものがあるだろうか。昔話、民話『三びきのこぶた：イギリス昔話』『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』『ガラスめだまときんのつこのヤギ：ベラルーシ民話』は、共通して、悪者のおおかみ、きつね、ヤギが登場し、最後、懲らしめられる。これは、昔話、民話が、悪いことをしたら、それが自分に返ってくることを教訓的に子どもに教えているものが多いからだと考えられ、勧善懲悪型とする。

他には、結末に問題が解決する問題解決型がある。『はぶじゃぶじゃん』は魔法使いで、「はぶじゃぶじゃん」と唱え、まっくろの雲を魔法で追い返そうとするが、上手くいかず、雨が降ってくる。「はぶじゃぶじゃん」という呪文を唱える度に、木、家、車、動物、船、飛行機等が降ってくる。しかし、最後に、「はぶじゃぶじゃん」という呪文を唱えると、雲は去り、おひさまがぴかぴかと輝く。結末に問題が解決するパターンはこの他に、『ふってきました』がある。『ふってきました』は、主人公がお母さんにあげるために、お花を摘んでいると、次々にわに、ぞう、ライオン、しまうま、パンダが降ってきて、皆でお花を摘むと、最後にお母さんが降ってきて、お母さんに花束を渡す。『はやくねてよ』も問題解決型である。『はやくねてよ』は、主人公がベッドにいるが、眠れず、ぶた、おかあさん、かいじゅうの数を数えるが、沢山出てきたぶた、おかあさん、かいじゅうから早く寝ろと言われ、うるさくて眠れない。しかし最後は、あまりのうるささに、「はやくねてよー」と叫び、疲れて寝てしまう。他に、『しろくまのパンツ』がある。『しろくまのパンツ』は、しろくまが自分のパンツがなくなり探す。様々なパンツが出てくるが、それは皆、他の動物のパンツで、最後にしろくまは真っ白のパンツを履いていることを思い出す。『おおきなかぶ』も最後に、やっとかぶが抜ける問題解決型である。

登場人物が最後に仲良しになる仲良し型も見られる。『がたたん たん』は、電車の中の知らない人たちが、「がたたん たん」と電車が揺れる度に、かごから猫が飛び出て捕まえてあげたり、本が落ちたのを拾ってあげたり、泣く赤ちゃんをあやしてあげたり、鳥が電車の中に飛び込んできたのを逃がしてあげたりする中で、皆が仲良しとなる。『ねずみくんのチョッキ』も最後、チョッキが伸びてしまい、ねずみくんは悲しそうであるが、ぞうさんが、チョッキをブランコにしてあげ、ねずみくんを乗せ、仲良しとなる。『わんわん わんわん：くすくすえほん』は、「わんわん わんわん」と鳴く1匹の犬から始まり、「ニャーゴ ニャーゴ」と鳴く猫が増える。それぞれの鳴き声で鳴く動物が1匹ずつ増えていき、最後は、犬、猫、豚、牛、鶏、羊の6匹になるが、そこに鳴きながら歩く象、ゴリラが現れ、6匹は黙って見守る。象とゴリラが通り過ぎるのを見て、また6匹で仲良く鳴き出す。『すやすやタヌキがねていたら』は、「すやすやタヌキがねていたら」「すやすやブタもねむるでしょう」という言葉で始ま

り、タヌキと眠るものが、ワニ、こども、トリ、ネコとなり、最後は沢山の動物や人間で仲良く眠る。『しゅくだい』は、だっこの宿題が出たが、お母さんは赤ちゃんが生まれて大忙しで、主人公は宿題ができない。しかし、宿題の内容を家族が知り、母、父、祖母にだっこされ、家族の仲が深まる。次の日学校で先生に「しゅくだいをやってきましたか」と聞かれると、だっこの宿題をした生徒の動物たちが皆で嬉しそうに「はい」と言って終わる。『だるまちゃんとてんぐちゃん』も、最後に2人仲良く遊んで終わる。『おふろで ちゃぶ ちゃぶ』も最後にあひるちゃんとぼくは仲良くおふろに入る。以上を仲良し型とする。

母親のところに最後戻ってきて終わる絵本も多く、母親回帰型と言えるであろう。『どんどこももんちゃん』は、どんどこ どんどこ、ももんちゃんは急いで進み、クマも投げ倒し、最後にたどり着くのは、母親の胸の中である。『とりかえっこ』は、ひよこが「びよびよ」と鳴きながら歩いていき、色々な動物と鳴き声をとりかえっこしながら歩き、最後に母親のところに帰り、母親に「おやまあ このこどうしたのかしら」と言われ、終わる。『くろねこ かあさん』は、最後、くろねこたちと母親と一緒に眠って終わる。『ケンケンとびのけんちゃん』は、ケンケンとびをしながらけんちゃんは、母親の元から、何回も去っては何かできるようになるか、何かになって母親の元に戻ってくる。最後は、またケンケンとびをしながら出て行くのだが、「こんどは なにに なって かえってくるのかしら？ た・の・し・み」という言葉で終わっていて、また母親のところに帰ってくることを予感させて終わっているので、母親回帰型と言えるだろう。『ふってきました』は、最後は母親に花束を渡して終わるので、母親回帰型でもある。『しゅくだい』は、母親にだっこしてもらうので母親回帰型でもあり、しゅくだいという問題を解決することにもなるから、問題解決型でもある。

結末で、夢、空想から覚めて終わる、覚醒型の結末もある。上記の中の絵本でこのような結末のものは、『ぼくのトイレ』があり、様々なトイレが登場する中、自分の家のトイレを探しに冒険へ出かけるが、最後は、パパ、にいちゃんという言葉で、自分が自宅のトイレにいるところに意識が戻る。『わたしのワンピース』は、白い布でワンピースを作り、そのワンピースでお花畑に行くと、ワンピースは花模様になり、雨が降ってくると水玉模様となる。このように、ワンピースの模様は変化し、最後は眠ってしまい、起きると星の模様となっていて、終わる。

### (3) 繰り返し構造と結末の関係性

繰り返し構造と結末のパターンについては、関係性があるのだろうか。以下の表で、整理を行う。

以下の表から分かるように、今回抽出した絵本では、中心物一貫性反復型が多い。中心物一貫性反復型は、常に同じ中心物が登場し、その中心物に変化していく。同じ中心物が登場し、何かを行う方が、理解しやすく、感情移入もしやすいからではないだろうか。



表1 繰り返し構造の種類と分類冊数

繰り返し構造の種類	絵 本 名	冊数
反復型	『いないいないばあ』『おふろで ちゃぶ ちゃぶ』『しろくまのパンツ』『三びきのこぶた：イギリス昔話』『ふってきました』『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』	6
系列的反復型	『ねずみくんのチョコッキ』『ガラスめだまときんのつなのヤギ：ベラルーシ民話』	2
累加型	『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』『わんわん わんわん：くすくすえほん』	2
系列的累加型	『おおきなかぶ』	1
中心物一貫性反復型	『とりかえっこ』『どんどこももんちゃん』『オー・スッパ』『かえるのあまがさ』『がたたん たん』『キャベツくん』『くまくん』『くろねこかあさん』『ケンケンとびのけんちゃん』『ゴムあたまポンたろう』『しゅくだい』『すやすやタヌキがねていたら』『だるまちゃんとてんぐちゃん』『ともだち できたよ』『はぶじゃぶじゃん』『はやくねてよ』『ぼくのくれよん』	17
中心事物一貫性願望反復型	『でんしゃえほん』『ぼくのトイレ』『わたしのワンピース』	3
合 計		31

結末の種類も整理を行う。

表2 結末の種類と冊数

結末の種類	絵 本 名	冊数
勧善懲悪型	『三びきのこぶた：イギリス昔話』『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』『ガラスめだまときんのつなのヤギ：ベラルーシ民話』	3
問題解決型	『はぶじゃぶじゃん』『はやくねてよ』『しろくまのパンツ』『おおきなかぶ』『ともだち できたよ』	5
仲良し型	『がたたん たん』『おふろで ちゃぶ ちゃぶ』『ねずみくんのチョコッキ』『わんわん わんわん：くすくすえほん』『すやすやタヌキがねていたら』『だるまちゃんとてんぐちゃん』	6
母親回帰型	『どんどこももんちゃん』『とりかえっこ』『くろねこ かあさん』『ケンケンとびのけんちゃん』	4
混合型（問題解決型＋母親回帰型）	『ふってきました』	1
混合型（問題解決型＋仲良し型＋母親回帰型）	『しゅくだい』	1
覚醒型	『ぼくのトイレ』『わたしのワンピース』	2
その他	『いないいないばあ』『きゅうりさんととまとさんとたまごさん』『オー・スッパ』『かえるのあまがさ』『キャベツくん』『くまくん』『ゴムあたまポンたろう』『でんしゃえほん』『ぼくのくれよん』	9
合 計		31

結末を類型化できなかった絵本もあるが、問題解決型、仲良し型、母親回帰型、勧善懲悪型が多いことが分かる。

では、これらの構造類型と結末の種類に何らかの関係性はあるだろうか。

6冊ある反復型の中で、3冊（『三びきのこぶた：イギリス昔話』『きつねとうさぎ：ロシアの昔話』『ガラスめだまときんのつなのヤギ：ベラルーシ民話』）が、勧善懲悪型である。これは、この3冊が昔話、民話であり、悪いことをしたら懲らしめられることを教訓的に子どもに教えており、反復することで、その教訓を強めているのではないか。

7冊ある問題解決型（混合型の『しゅくだい』も含む）の中で、中心物一貫性反復型であるものが4

冊（『はぶじゃぶじゃん』『はやくねてよ』『ともだち できたよ』『しゅくだい』）であった。これは、主人公が問題を解決していくからだと思われる。

7冊ある仲良し型（混合型の『しゅくだい』も含む）の中で、中心物一貫性反復型であるものが4冊（『がたたん たん』『すやすやタヌキがねていたら』『しゅくだい』『だるまちゃんとてんぐちゃん』）、系列的反復型であるものが1冊（『ねずみくんのチョッキ』）、累加型であるものが1冊（『わんわん わんわん：くすくすえほん』）である。これは、主人公が他の者と仲良くなっていくので、主人公主体でストーリーが展開するから、中心物一貫性反復型が多い。累加型も、主人公から人数が増えていき、最後に皆で仲良くなるので、仲良し型に累加型が見られる。

6冊ある母親回帰型（混合型の『しゅくだい』『ふってきました』も含む）の中で、中心物一貫性反復型であるものが、5冊（『とりかえっこ』『どんどこもんちゃん』『くろねこかあさん』『ケンケンとびのけんちゃん』『しゅくだい』）、1冊（『ふってきました』）は反復型である。中心物一貫性反復型が多い理由は、主人公が冒険し、母親の元に帰ってくるパターンが多いからである。

#### 4. 考 察

対象にした子どもに読みつがれる「よい絵本」とされる絵本57冊中、繰り返し構造が見られた絵本が31冊で、半分以上に繰り返し構造が見られるということは、繰り返し構造が、絵本の魅力の1つとなっているのではないか。

また、繰り返し構造が見られた乳児対象の絵本は、4冊中4冊で、4冊という少ない数ではあるが、0～3歳未満の乳児という言葉がまだあまり発達していない子どもにとって、繰り返し構造や言葉を繰り返すことは、理解のしやすさに結びつくため、繰り返しが多いのではないか。

絵本の繰り返す構造について、井倉・青木（1988）は、「人は『知っているもの』に出会った時、それが音楽であれ、絵であれ、詩であれ、心ひかれるものである。そして安心し、満足する。幼児にとって、『知っているもの』との出会いはそう多くはない。経験が少ないうに、記憶力がまだ未発達だからである。ところが、反復の場合、長期の記憶力に頼る必要はない。『知っているもの』との最もシンプルな出会いが反復と言えよう。二回目の繰り返しで、子どもは『知っているもの』に出会う。『あっ、さっきと同じだ』と気づく。この＜同一性＞の認知が、ひょっとして、『つぎも…』という＜予想＞を生む。三回目で、予想が＜的中＞すると、子どもたちは、大いに喜びもし、満足もする。だから、反復は、少なくとも三回なくてはならない。反復によって不思議な世界に誘われるだけでなく、ものごとを関係づけ、予測する知的な刺激も受けることになる。＜予想→期待→的中→満足＞という読みのダイナミズムを体験する。」と述べている。乳児は幼児より、経験が少ないうに、記憶力が未発達なので、繰り返す構造の絵本が多いのではないか。

＜予想→期待→的中→満足＞を繰り返し、結末は、予想通りで＜予想→期待→的中→満足＞となる場合や、予想をしていなかったもので終わる場合もあるが、ハッピーエンドで終わるものが多い。これは、漫才における天井と言われる手法と共通している。漫才における天井は、同じ内容を少し変えて何回か繰り返し、オチでひねったもの、予想外のものをもって来る手法である。これも、＜予想→期待→

的中→満足>を繰り返し、<予想→期待→予想外>というように予想もしていなかったもので終わり、絵本の繰り返し構造と同じである。子どもであれ、大人であれ、このような繰り返し構造にひきつけられ、予想外の結末、オチで楽しい気持ちとなるのである。

繰り返す構造であっても、全く同一の繰り返しではない。そのことについて、井倉・青木（1988）は、「子どもたちは、同じものの繰り返しの中で、『違い』に気づく。それがだんだん大きく、だんだん多くなっていくことに気づく子どももいれば、気づかない子どももいるだろう。その時気づかなくても、繰り返し『てぶくろ』を読んでもらっているうちに気づいていく。—このようにして、反復構造の中の<同一性>と<差異性>ということをテコにして、話のしくみを捉えていくのである。また、幼い子どもたちには、人物の性格を示すのに、どんな形容詞をいくつつけても実感がわきにくい。ことばとイメージとのつながりが弱いからである。そういった意味で、人物の行動・会話などの反復は人物の性格をきわだたせ、物語のテーマを支えうると言えるだろう。」と述べている。繰り返すことで、子どもに人物の性格や物語のテーマを理解しやすくさせ、人物の性格、物語のテーマを強めている。

本稿では、繰り返す構造の絵本を反復型、系列的反復型、累加型、系列的累加型、中心物一貫性反復型、中心事物一貫性願望反復型に分類した。繰り返し構造の中でも、中心物一貫性反復型の数が一番多く17冊で、反復型は6冊、系列的反復型は2冊、累加型は2冊、系列的累加型は1冊、中心事物一貫性願望反復型は3冊であった。一番多い中心物一貫性反復型は、常に、同じ中心物が登場し、その中心物に変化していき、主人公が常に出てくることで、主人公の性格もつかみやすく、物語も想像しやすいのではないか。

結末は、勸善懲悪型、問題解決型、仲良し型、母親回帰型、覚醒型、混合型に分類した。その中で、問題解決型が一番多く7冊、勸善懲悪型は3冊、仲良し型は7冊、母親回帰型は6冊、覚醒型は2冊である。井倉・青木（1988）は、日常の論理では乗り越えられない、数多くの生きる課題をかかえていて、“越えたい”と思いつつも簡単に越えることのできない現実が大人にも子どもにもあるが、その課題が一気に解決されたとしたら、すかつとし、それがファンタジーなのである、と述べている。問題が一気に解決する絵本で、子どももすっきりし、前向きな気持ちとなるのではないか。仲良し型も多いのは、友達がほしい子どもの心に安心感を与える。また、母親回帰型が多いのは、日本の場合一般的に、子どもと接する時間が多いのは父親ではなく母親で、絵本に登場するのは、自然と普段子どもと接する機会の多い母親となる。また乳幼児の場合、絵本は大人が選び、大人が買う若しくは借りることが多く、その大人は父親ではなく母親であることが多いため、母親が登場する絵本が多くなるのではないだろうか。

繰り返し構造と結末の関係性で認められた点は、反復型は勸善懲悪型が多いという点である。これは、悪いことをすると自分にそれが返ってくるという教訓を強めているからである。問題解決型は、中心物一貫性反復型が多い。これは、主人公が全ての場面に出てきた方が、子どもにとって理解しやすく、感情移入しやすいためであろう。

本稿では、絵本の繰り返し構造と結末の分析を試みた。しかしながら、結末の全てを類型化できず、絵本は膨大な数があり、引き続き検討が必要である。また、母親回帰型の絵本が、日本だけの特徴なのかについても、今後研究していきたいと考えている。



<注>

- 1) 日本の絵本とは、日本の創作絵本のことであり、原話は外国のものでも、再話、再創造して日本で絵本化されているものも含まれている。
- 2) 分析対象にした絵本は以下の通り。

全国学校図書館協議会選定 「第 28 回 よい絵本」

乳児（0歳～3歳未満）

絵本名	作 者 名	出 版 社 名	出版年
いないいないばあ	松谷みよ子 文 瀬川康男 え	童心社	2009年
おふろで ちゃぶ ちゃぶ	松谷みよ子 文 いわさきちひろ え	童心社	1990年
きゅうりさんととまとさんとたまごさん	松谷みよ子 文 ひらやまえいぞう え	童心社	1999年
どんどこももんちゃん	とよたかずひこ さく・え	童心社	2005年

幼児（3歳～就学前まで）

絵本名	作 者 名	出 版 社 名	出版年
あいうえおうさま	寺村輝夫 文 和歌山静子 絵 杉浦範茂 デザイン	理論社	2012年
イエベはぼうしがだいすき	石亀泰郎 写真 文化出版局編集部 文	文化出版局	2017年
うたのてんらんかい	くどうなおこ うた 長新太 え	理論社	1993年
おおきなかぶ	A. トルストイ 再話 内田莉沙子 訳 佐藤忠良 画	福音館書店	1999年
おしゃべりなたまごやき	寺村輝夫 作 長新太 画	福音館書店	2019年
オー・スッパ	越野民雄 文 高島純 絵	講談社	2018年
おばけのどろんどろんとびかぴかおばけ	わかやまけん 作・絵	ポプラ社	2009年
かいわれざむらいとだいこんひめ	川北亮司 文 国松エリカ 絵	童心社	2011年
かえるのあまがさ	与田準一 [作] 那須良輔 画	童心社	2011年
かさ	太田大八 作・絵	文研出版	1976年
がたたん たん	やすいすえこ 作 福田岩緒 絵	ひさかたチャイルド	2009年
ガラスめだまときんのつののヤギ：ベラルーシ民話	田中かな子 訳 スズキコージ 画	福音館書店	2009年
きかんしゃやえもん	阿川弘之 文 岡部冬彦 絵	福音館書店	2009年
きつねとうさぎ：ロシアの昔話	フランチェスカ・ヤールブソワ 絵 ユリー・ノルシュテイン 構成 こじまひろこ 訳	福音館書店	2003年

絵本における繰り返し構造と結末の分析

きつねのかみさま	あまんきみこ 作 酒井駒子 絵	ポプラ社	2004年
キャベツくん	長新太 文・絵	文研出版	1980年
くまくん	二宮由紀子 作 あべ弘士 絵	ひかりのくに	2019年
くろねこかあさん	東君平 さく	福音館書店	2016年
ぐりとぐら	なかがわえりことおおむらゆりこ [作]	福音館書店	2000年
けんかのきもち	柴田愛子 文 伊藤秀男 絵	ポプラ社	2018年
ケンケンとびのけんちゃん	角野栄子 作 大島妙子 絵	あかね書房	2005年
ゴムあたまポンたろう	長新太 作	童心社	1999年
三びきのこぶた：イギリス昔話	瀬田貞二 やく 山田三郎 え	福音館書店	2008年
したのどうぶつえん	あきびんご 作	くもん出版	2008年
しゅくだい	宗正美子 原案 いもとようこ 文・絵	岩崎書店	2003年
しょうぼうじどうしゃじぶた	渡辺茂男 さく 山本忠敬 え	福音館書店	2003年
しろくまのパンツ	tupera tupera 作	ブロンズ新社	2019年
11ぴきのねこ	馬場のぼる 著	こぐま社	1998年
14ひきのおつきみ	いわむらかずお さく	童心社	1993年
すやすやタヌキがねていたら	内田麟太郎 文 渡辺有一 絵	文研出版	2009年
だいおういかのいかたろう	ザ・キャビンカンパニー 作・絵	鈴木出版	2019年
だるまちゃんとてんぐちゃん	加古里子 さく/え	福音館書店	1990年
でこちゃん	つちだのぶこ さく・え	PHP 研究所	2007年
でんしゃえほん	井上洋介 [作]	ビリケン出版	2014年
とべバッタ	田島征三 作	偕成社	1999年
ともだち できたよ	内田麟太郎 文 こみねゆら 絵	文研出版	2012年
とりかえっこ	さとうわきこ 作 二俣英五郎 絵	ポプラ社	2019年
ねえ とうさん	佐野洋子 作	小学館	2018年
ねずみくんのチョコキ	なかえよしを 作 上野紀子 絵	ポプラ社	2009年
はけたよ はけたよ	かんざわとしこ ぶん にしまきかやこ え	偕成社	1990年
はぶじゃぶじゃん	ますだゆうこ ぶん 高島純 え	そうえん社	2011年
はやくねてよ	あきやまただし 作・絵	岩崎書店	2018年
ふうせんクジラ	わたなべゆういち 作・絵	佼成出版社	2002年
ふってきました	もとしたいづみ 文 石井聖岳 絵	講談社	2016年
ぶたたぬききつねねこ	馬場のぼる 著	こぐま社	2001年
ブラッキンダー	スズキコージ 作絵	イースト・プレス	2009年

ぼくのくれよん	長新太 おはなし・え	講談社	2015年
ぼくのトイレ	鈴木のりたけ 作・絵	PHP 研究所	2012年
ぼんぼん山の月	あまんきみこ 文 渡辺洋二 絵	文研出版	1985年
もけらもけら	山下洋輔 ぶん 元永定正 え 中辻悦子 構成	福音館書店	1999年
わたしのワンピース	にしまきかやこ えとぶん	こぐま社	2009年
わっこおばちゃんのしりとりあそび	さとうわきこ さく	童心社	2018年
わんわん わんわん：くすくすえほん	高島純 作	理論社	2008年

<引用文献>

- 赤羽根有里子、鈴木穂波（2018）『保育内容 ことば 第3版』みらい
- 秋場美智子（1982）「就学前教育における教材の研究—絵本の構造分析—」『幼児教育』p52-60
- 井倉美江、青木徳子（1988）「空想物語絵本の表現と構造」早川勝広『表現学体系』冬至書房、p116, p118, 120
- 岩田紘佳（2003）「絵本における繰り返し構造の分析」『日本保育学会大会発表論文集』第56号
- エウゲーニー・M・ラチョフ（2003）『てぶくろ』福音館書店
- 河合隼雄、松居直、柳田邦男（2003）『絵本の力』岩波書店
- 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館
- 全国学校図書館協議会「よい絵本」<https://www.j-sla.or.jp>
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
- 文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

<参考文献>

- 渡辺 茂男(作) 山本 忠敬 (絵) (1966)『とらっく とらっく とらっく』福音館書店
- マリー・ホール・エッツ (ぶん/え) (1999)『もりのなか』福音館書店
- マーシャ・ブラウン (え) せたていじ (やく) (1990)『三びきやぎのがらがらどん』福音館書店
- クレール・H・ビショップ (ぶん) クルト・ヴィーゼ (え) かわもと さぶろう (やく) (1998)『シナの五にんきょうだい』瑞雲舎
- バージニア・リー・バートン (ぶん/え) むらおかはなこ (やく) (1997)『いたずらきかんしゃ ちゅう ちゅう』福音館書店
- 松野正子 (さく) 瀬川康男 (え) (2004)『ふしぎなたけのこ』福音館書店